



医学部だより

第22号

2011.4.1



青年よ、大志を抱け

医学部長 玉置 俊晃

新入生の皆様、徳島大学医学部入学おめでとうございます。皆さんは非常に大変な大学入試を突破し医学部に入学されたので、将来の人生の方向性がかなり明確になり、希望に燃えていることと思います。この晴れやかな希望に燃えた志を大切に、新入生の皆様が素晴らしい大学生活のスタートをきって、徳島大学医学部において医療人としての基盤になる知識や技術を十分に身に付けていただくことを願っております。しかし、医学・医療の専門知識や技術を十分に身に付けただけでは、医療人や医学者として十分な活躍は出来ません。医療人には知識や技術を含めた「人間力」が必要です。徳島大学在学中に、有意義で充実した楽しい学生生活を送って、新入生の皆さんが「人間力」付けていただけることを、私は期待しています。

徳島大学医学部には、医学科、栄養学科、保健学科の3つの学科があり、何れの学科に入学した新入生も将来は、医療・医学や福祉を担う医療人として専門的な知識や医療技術を提供して社会に貢献するだけでなく、医療・医学の研究者や教育者になる道も用意されています。20世紀後半から、生命科学や医学に関する情報は爆発的に増加して、医療の世界にも新しい技術・新しい理論・新しい治療法などが次々と急激に増加してきています。しかしながら、生命科学や医学の世界では明らかになっ

ている事より十分に解明されていない不明な点が圧倒的に多いのが現状であろうと思います。新入生の皆さん、生命科学や医学の疑問点に挑戦してみませんか？生命科学や医学の世界では、挑戦する課題は山のようにあります。ガンの原因を明らかにする。副作用無くガンの進行を止める。糖尿病の進行を止める。慢性腎臓障害の進行を止める。動脈硬化を予防する。等々、沢山あります。

札幌農学校教授のクラーク博士が米国に帰国する際に、見送りの学生に言い残した言葉として“Boys, be ambitious.”は、あまりにも有名で、皆さんもご存じの事と思います。しかし、どのような状況でどのような文脈のなかで発せられた言葉であるのかは、諸説があるようです。その中の一つとして伝えられているのは、“Boys, be ambitious. Like this old man.”があります。私は、30年近く腎臓や血管の研究を続けており、皆さんのご両親より多分年上でしょう。かなりの歳になりましたが、今も「夢」を持ち続けて研究を続けています。昨年の医学科の研究室配属の発表会で優秀賞を獲得した学生が言いました。「ノーベル賞をとる!」。その意気や良し。是非、大きな志を持って徳島大学で研究者として活躍してみませんか？

青年よ！ 大志を抱け。

目次

CONTENTS

医学部長挨拶	1	数字で見る医学部	11
新入生のみなさんへ	2	学遊抄	12
先輩からの医学部紹介	4	第57回徳島大学解剖体慰霊祭	12
生命科学総合実験研究棟(医学臨床B棟)の完成	6	退職者ご挨拶	13
徳島大学医学部-ソウル国立大学医学大学校 学術交流協定締結記念シンポジウム	8	転出者ご挨拶	13
徳島医学会報告	9	新任教職員あいさつ	14
蔵本祭	10	受賞者紹介	15



新入生諸君！！

医学科長 丹 黒 章

入学おめでとうございます。苦しかった受験勉強に耐え、難関を乗り越えた君たちに心から敬意を払い、祝福したいと思います。今日から医学生としての希望に満ちた日々が始まり、多くの自由が与えられます。大学というところは人を育むところですが、縛られる校則も、お世話をしてくれる担任もいません。君たちは自分のことは後回しにしてでも他人の面倒をみなければならない“医師という職業”を目指しています。今日からは自分のことよりも人のお世話ができる自分を磨いて下さい。自分のことで精いっぱい人のお世話などとてもできないという人はクラブ活動をして自分を鍛えて下さい。6年の間にできるようになるはずで、卒業までにしてほしいことは多くの友

をつくること、今まで読んでことがなかった多くの本を読むことです。人生に近道はありません。どれだけ自分を鍛えたかが10年後の自分に跳ね返ってきます。

徳島大学では様々なチャンスを提供します。3年時の医学研究実習（研究室配属）では未知に挑戦する研究者としての経験を積むことができます。5年時の臨床体験実習では実際の臨床経験を積むことができます。海外留学のチャンスも与えられます。自由をはき違え、自宅に引きこもり、自堕落な生活することなく、多くの友と自由を謳歌して下さい。思い悩むことがあったら遠慮なく私に相談に来なさい。それに応えるだけの経験は積んでいるつもりです。人生は経験です。経験が思いやりと創造力を養い、新たなモチベーションを生むのです。



栄養学科へようこそ

栄養学科長 寺 尾 純 二

新入生の皆様、入学おめでとうございます。栄養学科は1964年の創立以来まもなく50周年を迎えようとする日本有数の栄養学教育拠点です。そして大学院栄養生命科学教育部と一体化することにより、世界をリードする栄養科学研究の中心であると自負しています。本学科は医学部に設置された唯一の栄養学科として大学病院や医療関連学部および研究センターが集中した蔵本キャンパスにあるという立地条件を生かし、疾病の予防から治療まで医学に基づいた最新の栄養学を学べる恵まれた環境にあります。学科は臨床栄養学、分子栄養学、代謝栄養学、実践栄養学、生体栄養学、食品機能学、予防環境栄養学の7分野で構成されており、各教員の熱心な指導のもとに興味

深い授業、実習や卒業研究を通じて充実した勉学に励むことができます。皆様の先輩達である2,200人を越える栄養学科卒業生は、大学で教育研究に携わる教授や国内外の研究機関で活躍する研究者、病院において栄養指導を実践する管理栄養士など様々な方面で全国的に活躍しています。また企業での商品開発、行政での健康増進活動、日本栄養士会活動などを通じて我国の栄養学分野で大きな力を発揮しています。そして我国の将来の栄養学を担う若い人材が徳島大学に集結しています。新入生の皆様全員が将来は栄養学分野のリーダーをめざして、知力、体力そして人間力を大いに鍛え、4年間で大きく飛躍することを願っています。



新入生の皆さんへ

保健学科長 多 田 敏 子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、保健学科の10期生になります。保健学科に新入生を初めて迎えたのは平成14年4月でした。それ以降、平成18年に大学院博士前期（修士）課程、平成20年には博士後期課程が設置されました。建物も改修され、皆さんの先輩や保護者の皆様、また教職員のご協力のもと学習環境がやっと整ってきたところに皆さんを迎えることになりました。

皆さんが、徳島大学保健学科を選び、これから保健医療分野の専門職になるための学習を始めることはとても喜ばしいことだと思います。なぜなら、これから皆さんが学習することは、看護学、放射線技術科学、検査技術科学といった保健医療に関連する知識を身につけるだけでなく、幅広い年代や健康状態の

人に向き合い、どのように関わればよいのかという、人を支援する技術を修得することになるからです。それだけではなく、多くの人との出会いの中で、自分自身を見つめ考える機会を得ることで、自分自身を育てることもなります。そして卒業時には専門職となる国家試験受験資格を得ることができます。国家試験に合格してはじめて、皆さんがめざす専門職になることができます。皆さんが保健医療の資格を生かして活躍されることを、社会から切に期待されています。卒業すれば自動的に資格を得ることができるのではないことを忘れず、しっかり学んでほしいと思います。

徳島大学のキャンパスは皆さんにとって宝庫です。健康に気をつけ、素晴らしい宝物を見つけてください。

■ ■ ■ ■ ■ 新入生の皆さんへ ■ ■ ■ ■ ■



医学科 4年
竹内 大平

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。ようこそ徳島大学へ。受験勉強が終わり、みなさんの胸の中は新しい生活への期待や不安でいっぱいでしょう。

高校生の頃までと比べて、大学生の間はかなりの自由が許されています（もちろん責任もともないませんが・・・）。そのため、何をするかはあなた次第です。学業に専念するのよし、部活やサークルに打ち込むのよし、バイトに精を出すのよし。ボクはもっと海外旅行したかったな、なんて思います。ただ今までと違って、大学では何をするかを誰も与えてくれません。研究も部活もバイトも、何のために大学に入ったのか、今自分が何をしたいか、将来のため自分は何をしなければいけないのかを自分で考えて、より自発的に行動しなくてははいけません。自分の明確な将来像と目標を持って過ごさないと、だらだらと過ごしてあっという間に大学生活は過ぎてしまいますよ。気がついたら卒業間近で、後悔とともに自分の大学生活をふりかえる羽目になりかねません。

入学した今、大学生活や将来の具体的な目標を立てて、いろんなことを経験して人間性を磨いてください。もっともっと自分の世界や器を広げることに挑戦してください。みなさんにとって大学生活が人生で特別なものとなるように願っています。



栄養学科 4年
安井 朗洋

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。同じ大学の先輩として、皆さんに一言、メッセージを贈らせて頂きます。

皆さんは大学ではたくさんの自由な時間を持ちます。「自由な時間」なわけですから、どのように使うかは、まさしく皆さんの自由です。ですが、何をしたら良いのかわからない、という人も多いと思います。そんな方々にお伝えたいのが、「とにかく動いてみる」ということです。私は、大学入学当初から海外に興味を抱いていました。しかし、様々な理由からためらい、なかなか動き出せませんでした。二年生の後期になってようやく動き始め、シドニーに約一ヶ月間留学しました。そこで私は、それまでに経験したことの無かった感動を味わったのです。そして、もっと色々な場所を訪れたいと思うようになりました。ですが、そのとき私は既に大学三年生。もう残された長期休暇はなく、海外留学は不可能でした。留学に行く前は、その留学で満足すると思っていたのです。しかし、いざ実際にやってみると、次にしたいことが見つかったのです。

一步踏み出せば、そこには違う景色が広がります。そして、次の一步は自ずと決まっていきます。後悔することの無い様、皆さんにはできる限り早くその第一歩目を踏み出し、どこまでも自分の思うままに突き進んで行ってほしいです。きっとその中で、様々なことを体験し、感じ、大きく成長できることでしょう。



保健学科看護学専攻 4年
梅本香菜子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活は、長いようであっという間です。なりたい自分をイメージして、すべきこと、やりたいことを考え、目標を持って日々過ごしてほしいと思います。そして、勉強と同時に部活動やサークルなど大学生活でしかできないことにもぜひ挑戦して下さい。

現在私は臨床実習中で、悩むこともあります。学ぶことも大変多く、先生方や仲間を支えられながら充実した日々を過ごしています。また、看護学専攻では養護教諭一種免許の取得も可能になったので、これから教育実習で子どもたちに会えるのを楽しみにしています。みなさんも、いろんなことへの挑戦や人と関わりを通して、充実した大学生活を送られることを心から願っています。



保健学科放射線技術科学専攻 4年
遠藤 亮悠

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。長かった受験勉強の間に多くの事を学んだのではないのでしょうか。これからの大学生活では、自由な時間が大幅に増えると思います。その時間を勉強・趣味・バイトやサークル活動に充てるのもいいでしょう。私自身反省する点が多くありますが、それらの時間を有効に用いてください。放射線技術科学専攻では、実際に病院で使用されているX線照射装置やCT、放射性同位体（RI）を用いた実習を行うことができます。この専攻でしか触れることのできない装置や物質が多くあるので、楽しみにして下さい。

大学生活はあっという間に過ぎて行きます。これから数年間の大学生活を後悔しない為にも、よく学びよく遊んで大いに楽しめるように願っています。



保健学科検査技術科学専攻 4年
友藤 達陽

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長かった受験生活も終わり、これからの新しい生活に期待を膨らませていることと思います。検査技術科学専攻では、

1年の間は自由な時間がたくさんありますが、2年、3年と学年が上がるにつれて授業や実習が増え、自分の時間を作ることが難しくなってきます。部活動、アルバイトなどやりたいことは1年の間にどんどんチャレンジしてください。大学生活では、学内だけではなく、アルバイトなどを通じて様々な人と交流していくことも大切かと思えます。社会に出て行く前の準備期間でもあるので、色々なことに挑戦し、人との交流を大切に有意義な大学生活を送ってください。

先輩からの医学部紹介

新入生のみなさん
ご入学おめでとうございます

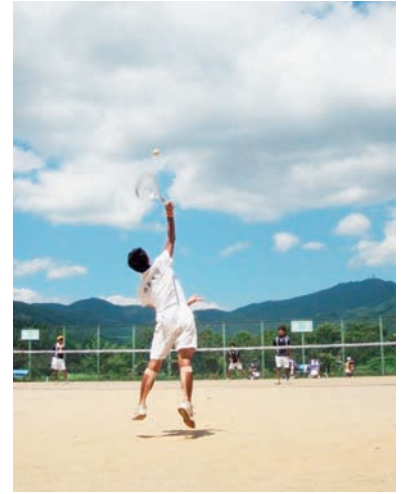
◆部活動・サークル活動について

医学科4年 西川 大定

高校と大学で大きく違うことといえば、まず「部活動・サークル活動」が思い浮かぶと思います。実際、大学生活において部活動やサークル活動はかなり重要な位置づけにあります。大学には高校までと比べてより多くの部活・サークルが存在します。自分のことにはなりますが、僕は小学校からずっと野球をやっていました。大学に入っても、体を動かしたかったので、運動部に入ろうとは思っていましたが、いろんな部活・サークルがあって、かなり迷いました。そんなときは、興味のある部活・サークル全部に行ってみましょう。それぞれの部活・サークルごとにカラーがあっておもしろいですよ。



僕はバレー部に入りました。今でも野球は大好きで、練習にもたまに行ったりしますが、せつかく大きく環境が変わったのだから、何か新しいことにチャレンジしてみようと思いました。また、部の雰囲気自分が合っていると思ったこともバレー部に決めた理由です。部活動やサークル活動では、活動を通し



て非常に密な人間関係を築くことができます。先輩、同級生、後輩、他学部の友人などもたくさん作れますし、大学で作った人間関係は一生の財産になります。

大学生にとって大事なものは、とにかくいろんなことを経験し、いろんな人と交流することでコミュニケーション能力を磨いたり、視野を広げたりすることだと思います。そのきっかけ作りに、部活動・サークル活動に入ってみませんか。絶対に後悔はしません。

◆授業について

栄養学科4年 前田 翼

大学の授業は高校の時とは全く変わったものになります。まず、1年生では一般教養と各学科で決められた専門科目を受けることになります。一般教養というのは大きく分けて4つの分野に分けられており、理系科目と文系科目をバランスよく受講します。このとき高校のときと大きく違う点は一般教養では自分で選んで受講するということです。そのため同じ学科の人でも受けている授業が異なってきます。ぜひ自分の興味のある授業を受けて関心を深め、将来に生かしてほしいと思います。

専門科目では学科によって異なりますが、1年生では週1回は蔵本キャンパスで授業があると思います。ここでの授業は入学してきた皆さんがやりかけたことが学べると思います。講義だけでなく、実験や実習などもあり、より多くのことを学べると思います。少し大変なこともあると思いますが、一生懸命勉学に励んでください。また、学年が上がるにつれて蔵本での授業が増え、より専門的なことを学ぶことができるようになります。

大学では今までよりも自分から学ぼうという姿勢が大事になってきます。1年生の頃は授業の合間に空きコマもできると思うので、その空いた時間なども有効利用することで自分を更に高めることができると思います。また、様々なことに挑戦してみて、4または6年間で自分のやりたいことを見つけ、それにむかって努力してください。



◆大学生協

保健学科4年 岡本史彦

大学生協は、大学生にとって大切な「学ぶ・遊ぶ・憩う」を全面的にサポートしてくれる組織です。新入生の皆さんが生協を上手くご活用できるよう簡単に説明させていただきます。

大学生協の施設には学内に2か所あります。蔵本SHOPには、学生生活に必要な不可欠なテキストや白衣などはもちろんのこと、雑誌やお菓子、電気製品などの日用品まで取り揃えています。教科書や参考書は、購入時に生協組合証を提示すれば10%オフで購入できるのでお得ですよ。また窓口では旅行や運転免許の申し込み、高速バスや航空チケットの手配も可能ですので、生協を通してアクティブな大学生活を送ってください。

生協にはもう一つ、カフェ施設「くらら」があります。こちらでは主に食事や談話など、ちょっとした休憩をするために多くの人が利用しています。店内で食べるためのメニューの他に

お弁当も取り扱っています。夕食時の日替わり定食はバラエティ豊かなので個人的にはよく利用しています。店内はオレンジ色のイスが基調となった暖かい雰囲気、とても居心地が良いですよ。また、くららにはポストが置いてあって、何でも好きなことを書いて投函するとスタッフの方がお返事をくれます。置いてほしい商品や増やしてほしいメニューの提案などから、なかには恋の相談や人生相談をする人も。そんなところもぜひチェックしてほしいですね。

大学生活は自分の行動次第でいくらでも楽しく充実したものになります。生協はあなたの大学生活を豊かなものにしてくれるはずですよ。



学友会活動

●●● 運動部 ●●●

●●● 文化部 ●●●

	クラブ名	部長
1	硬式野球部	中西 秀樹
2	ソフトテニス部	武田 英二
3	ラグビー部	中西 秀樹
4	卓球部	香美 祥二
5	柔道部	永廣 信治
6	弓道部	石村 和敬
7	剣道部	安井 夏生
8	準硬式野球部	島田 光生
9	合気道部	上野 淳二
10	水泳部	中屋 豊

	クラブ名	部長
11	硬式庭球部	福井 清
12	バドミントン部	土井 俊夫
13	サッカー部	高橋 章
14	バレーボール部	勢井 宏義
15	バスケットボール部	泉 啓介
16	空手道部	丹黒 章
17	陸上競技部	福井 清
18	ゴルフ部	
19	フットサル部	阪間 稔

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	中西 秀樹
2	外国語研究会	船木 真理
3	栄養学研究部	宮本 賢一
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	大下 修造
6	手話サークル	香川 典子
7	地域医療研究会	谷 憲治
8	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	勢井 雅子

※入部等の問い合わせについては、学務課(学生指導担当: ☎633-7030)へ連絡してください。

医学部行事予定

(平成23年4月～平成23年9月)

4月6日(水)	徳島大学入学式、医学部共通新入生オリエンテーション(13:30～長井記念ホール)	4月11日(月)	新入生授業開始
4月5日(火)～8日(金)(6日を除く)	医学部新入生学科別オリエンテーション 医学科、栄養学科、保健学科	4月20、21、25日	学生定期健康診断 医学科・栄養学科2年生以上
4月5日(火)	学生定期健康診断 医学科・栄養学科1年生	4月22、26日	学生定期健康診断 保健学科2年生以上
4月7日(木)	学生定期健康診断 保健学科1年生	8月初旬	西日本医科体育大会 徳島大学オープンキャンパス(学部説明会) 医学科、栄養学科、保健学科
4月9日(土)	医学部新入生研修(於:長井記念ホール)		医学部保健学科看護学専攻体験入学 *例年、8月第一週目の木、金に実施しています。

生命科学総合実験研究棟（医学臨床B棟）の完成

医療情報学分野 森口博基

平成17年度から毎年進められてきた医学部の改修工事が、平成22年10月、第3病棟跡地に生命科学総合実験研究棟が竣工して終了しました。老朽化した医学系基礎および臨床研究棟の改修工事が滞りなく進められ、既に改修が終了している栄養学科、保健学科と併せて、装いも新たなキャンパスへと生まれ変わりました。生命科学総合実験研究棟（医学臨床B棟）には医、歯、薬の19分野が同じ研究棟に終結し、1階にはHBS総合研究支援センターバイオイメージング研究部門が新たに開設され、バイオイメージングステーションの要として先端生命科学研究分野で活用される計画です。今後、病院外来棟の新設や、県立中央病院と一体となった総合メディカルゾーン構想へと、徳島大学病院は大きく展開されていきます。生命科学総合実験研究棟は、徳島大学病院と一体化できる位置にあり、生命科学研究の司令塔として機能することが期待されます。蔵本キャンパスは教育、研究、診療の3つの活動が実践できる施設環境、医学・医療の進歩に対応できる教育環境へと大きく変貌を遂げつつあります。

以下の分野が、生命科学総合実験研究棟（医学臨床B棟）へ移転しました。

医 学 科		
眼科学分野	三田村 佳典 教授	8階
腫瘍内科学分野	秋山 伸一 教授	8階
呼吸器・膠原病内科学分野	選考中	8階
腎臓内科学分野	土井 俊夫 教授	7階
小児医学分野	香美 祥二 教授	7階
脳神経外科学分野	永廣 信治 教授	6階
消化器・移植外科学分野	島田 光生 教授	6階
臨床薬剤学分野	水口 和生 教授	5階
循環器内科学分野	佐田 政隆 教授	4階
麻酔・疼痛治療医学分野	大下 修造 教授	3階
医療情報学分野	森口 博基 教授	2階
放射線科学分野	原田 雅史 教授	2階

歯 学 科		
口腔外科学分野	宮本 洋二 教授	4階
口腔内科学分野	東 雅之 教授	4階
歯科麻酔科学分野	北畑 洋 教授	3階
歯科放射線学分野	誉田 栄一 教授	2階

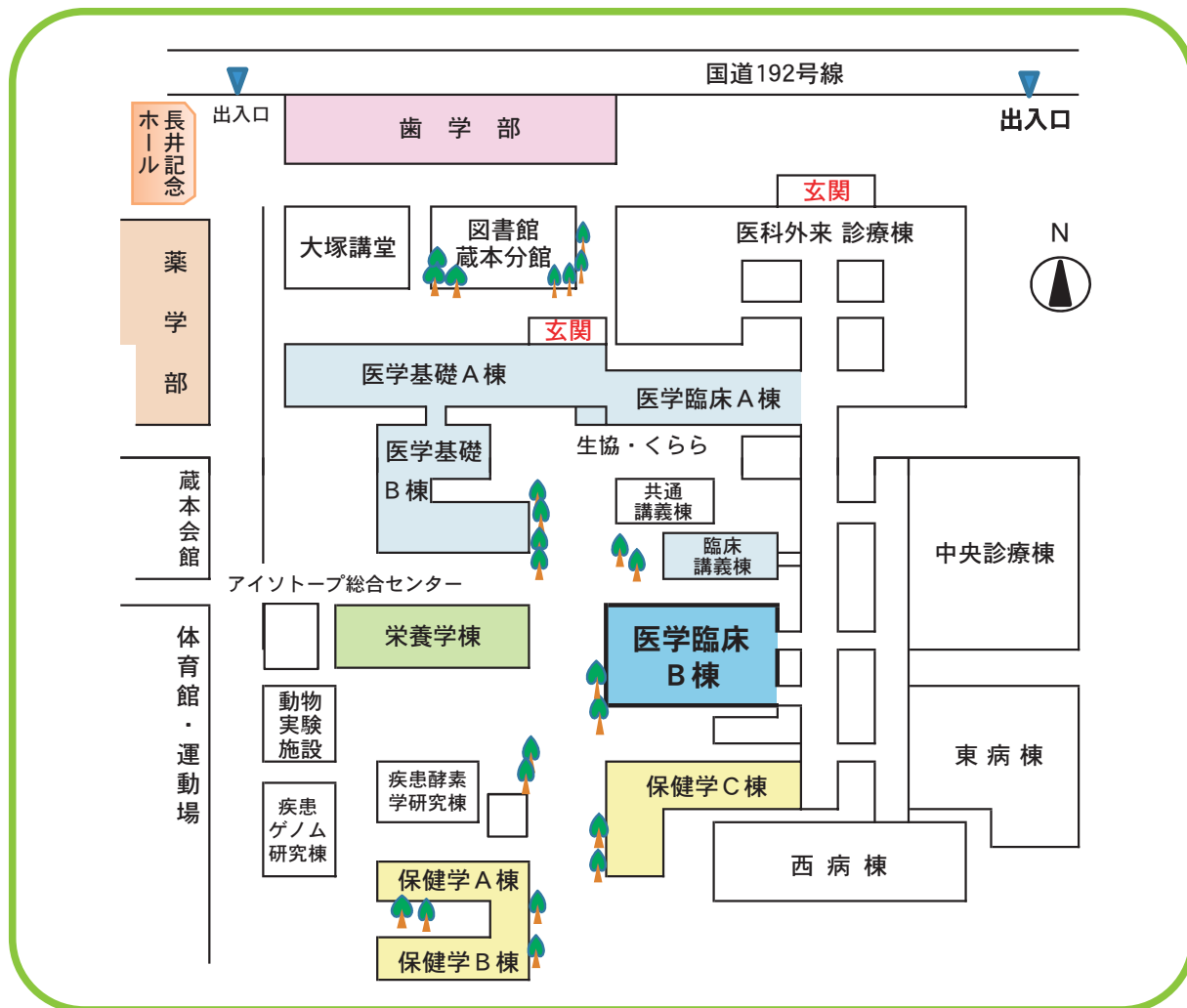
薬 学 科		
医薬品情報学分野	山内 あい子 教授	5階
医薬品病態生化学分野	山崎 哲男 教授	5階
医薬品機能生化学分野	土屋 浩一郎 教授	5階



東玄関ホール



南側研究室



エレベーターホール



南方からの外観

蔵本キャンパス 医学臨床B棟位置図

徳島大学医学部

ソウル国立大学医学大学校
学術交流協定締結記念シンポジウム

コーディネーター ストレス制御医学分野 六反一仁

2010年11月23日、ソウル国立大学医学大学校において、玉置俊晃医学部長とJung-Gi Im ソウル国立大学医学部長との間で学術交流協定が調印され、安友康二研究担当学部長補佐、村澤普恵国際担当学部長補佐、それに私が同席致しました。ソウル国立大学医学大学校の本部建物には歓迎の大きな横断幕が張られ、暖かい出迎えを受けました。韓国医学の起源として、2020年に世界の大学のトップテン入りを目指す意気込みに感銘を受け、徳島大学も頑張らねばとの思いを持ちました。北朝鮮の延坪島砲撃事件の真っ最中に調印式を行っていたこととなりますが、ソウル市内は普段と変わらず、一同無事帰学致しました。

本学術協定締結を受け、ソウル国立大学医学大学校から7名の先生方をお招きし、平成23年1月14日に徳島大学医学部で記念式典と記念シンポジウムを開催いたしました。午前の記念セレ



モニーでは、香川征学長から歓迎のご挨拶をいただき、玉置医学部長と村澤補佐による徳島大学医学部の紹介、続いて、Chung-Gyu Prk 研究担当学部長補佐と Park Ji-Hyun 国際担当によるソウル国立大学医学大学校の紹介がありました。同校の紹介は、歴史、施設、陣容、戦略が明記され、誇りと自信に満ちたものでした。村澤補佐による徳島大学医学部の紹介も素晴らしい内容で、参加者もその出来映えには大変満足致しました。同時に、徳島大学に必要なもの、これからなすべき事を改めて認識できるよい機会でした。

午後からは、徳島大学パイロット事業支援プログラム国際共同研究プロジェクト「心の疾患の予知・予防を目指す日韓共同研究」の計画をもとに、ストレス（六反一仁、Seng Wan Kang 教授、勢井宏義教授、親泊政一教授、井本逸成教授）、免疫（安友康二教授、Doo Hyun Chung 教授）、精神疾患（大森哲郎教授、Do-Hyung Kang 教授）、栄養（寺尾純二教授、Young-Joon Surf 教授）の各セッションで双方の研究紹介と交流を深めました。日本と韓国は、同じような歴史、文化、遺伝的背景を持っており、自殺率や出生率でも同じような悩みを抱えています。本学術交流を基盤として東アジアの研究拠点の形成を目指しています。同時に、学生・若手研究者の交流を積極的に行い、先のアジアカップの日韓戦のように、お互いが切磋琢磨できるような交流へと発展できればと願っております。関係各位のご協力をお願い致します。



徳島医学会報告

■ 第242回徳島医学会学術集会（平成22年度冬期）

循環器内科学分野 教授 佐田 政 隆

2月13日(日)第242回徳島医学会学術集会が長井記念ホールで開催された。今回は、薬理学分野（玉置俊晃教授）と循環器内科学分野（佐田）が担当した。午前中のシンポジウムでは、薬理学教室の企画で「生体の低酸素応答と疾患治療への応用」をテーマとして、低酸素刺激に対する生体反応が血管リモデリング、癌、腎不全などの病態に関与しているという最新の知見が報告され、それを治療に応用する新しい試みが紹介された。教授就任記念講演会では、消化器内科学分野の高山哲治教授が「手術不能進行胃癌に対する化学療法」という演題で、化学療法の最近の著しい進歩について、徳島での臨床研究成果を含めて紹介された。お昼を挟んで、ポスター発表が二会場に分かれて行われた。29題の発表があり活発な討論が行われた。医師会からは徳島市医師会の田山正伸先生、大学から消化器・移植外科学分野の居村曉先生が徳島医学会賞に選ばれた。年々競争が激化している若

手奨励賞には、甲乙つけがたい素晴らしい発表の中から、徳島大学病院卒後臨床研修センターの西山徹先生と門田尚子先生が選考された。徳島医学会賞受賞記念講演では、徳島大学医学部 MD, PhD コース在籍の黒川憲君が「選択的スプライシング調節因子 SRSF3 による細胞周期とアポトーシスの制御機構」という演題で最先端の研究成果を堂々と発表した。今後益々の活躍が楽しみである。もう一人の受賞講演では、美波町国民健康保険由岐病院内科の本田壮一先生が、「脳卒中の医療連携－県南部医療の改善をめざして－」という演題で、急性期治療がその後の予後に大きな影響を与える脳卒中を対象にして、県南部の地域医療の現状を発表された。このような研究を契機に、行政、医師会、大学などが動いて現状の改善に繋がればよいと思った。午後からは、「心筋梗塞から身を守る－発作が起こる前と起こってからできること－」という公開シンポジウムが行われた。心



ポスターセッションでの質疑応答



ポスターセッションでの説明

筋梗塞から身を守るために、生活習慣病対策がいかに重要であるのか、そのために、運動療法、食事療法をいかにやるべきであるかが詳細に解説された。また、一旦心筋梗塞を発症してしまったら、救命に向けた治療がどのように行われるのかが解説された。また、再発を防止するための心臓リハビリテーションがいかに重要であるかについて、榊原記念病院の長山雅俊先生が解説された。会場には沢山の一般の市民の方が訪れ、熱心に耳を傾けた。大学100名、医師会47名、県外3名、一般参加者149名と大勢の参加者があった。前日までの雪はあがったものの寒い一日であったが、会場は熱気に包まれ、大盛況であった。ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。



蔵 本 祭

第26回蔵本祭実行委員長 医学科5年 大隅 敬 太

実行委員長として運営してきた徳島大学蔵本祭を無事に終わることができ、ほっとしていると同時に、少し寂しい気持ちがあります。すばらしい経験ができたことなど多くの仲間と作り上げた今回の蔵本祭は、一生の思い出となりました。

蔵本祭は、実行委員会だけで学園祭を運営するのではなく、約750名もの学生が委員として運営に関わっています。多くの学生は運営側でもあり、来場者側でもあるのです。自分たちで作って、自分たちも楽しむというのが蔵本祭の強みであると思います。また、数年前より蔵本祭実行委員会は地域の夏祭りの運営もお手伝いさせて頂いており、今では学生が夏祭りを盛り上げ、地域の方々が蔵本祭を盛り上げるといった関係にまで発展しています。蔵本祭は大学のお祭りではありますが、大学内にこだわらず、もっと広くアイデアを取り入れ、他のコミュニティや団体を巻き込めるとより大きく新しいものになると感じました。こ



れからも蔵本祭は少しずつ前進し、常に新しいことを模索しながら、より楽しいお祭りになっていくことでしょう。

最後に、蔵本祭の開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆様と来場者の方々に心から御礼申し上げます。

蔵本祭を終えて

第26回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年 小山田 崇

蔵本祭に参加したのは、今年が初めてでした。私は栄養学の委員長として蔵本祭の企画・運営に携わりました。今年の栄養学展は「ダイエット」をテーマに1日150食の食事提供と展示を行いました。当日は、食事提供の時間前から行列ができ、開始から約2~3時間で予定食数がなくなるほどのお客さんが来場され、大変ではありましたが、それと同じくらいの達成感がありました。また、展示の内容に関してお客さんの方から質問やコメントをいただき、管理栄養士を目指す学生として栄養について知ってもらうことの難しさや重要性も経験することができました。

栄養学科の2,3年生の栄養学展委員や実行委員の方々の協力が

あってこそ、このような貴重な経験をすることができました。私がこの機会に学んだことを今後の学生生活だけでなく、社会に出た後も役立てていきたいと思っています。



模擬病院が教えてくれたこと

第26回蔵本祭模擬病院委員長 看護学専攻3年 濱田 真希

模擬病院には、2日間で234人の方にご来場頂きました。この数字を見ると、とても大きな企画に携わることができたのだと実感します。今年は、保健所の方々の協力を得て、妊婦・子育て体験を行いました。初めての企画でしたが、大変好評を頂



き成功できたことを嬉しく思います。

最初は不安で慣れない業務に悩まされることもありましたが、同時にとてもやりがいがありました。今回一番感じたことは、周りの人達の大切さです。委員の人達は、忙しい時間を割いて頑張ってくれました。委員以外の友達も、「大丈夫？頑張ってるね」と声を掛けてくれたり、お疲れ会を開いてくれたりしました。先生方からも的確なアドバイスを頂き、私は多くの人に支えられているのだと実感しました。また、まだ臨床実習経験の少ない私達にとって模擬病院は、一般の方と触れ合える貴重な体験でした。多くの方が健康に関心を持ち、自分の健康と正しい知識を持って向き合えるためには、どうすればいいのかと考える過程で、医療人になることの責任の重さ、相手と誠実に向き合うことの大切さを学ぶことができました。模擬病院に関わった全ての人に、心から感謝したいと思っています。

数字で見る医学部

～平成23年3月卒業者の進路状況～

H23.2現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	19
大阪大学医学部附属病院	5
徳島赤十字病院	4
京都大学医学部附属病院	3
京都第二赤十字病院	3
神戸大学医学部附属病院	3
徳島市民病院	2
尼崎医療生協病院	2
大阪府済生会野江病院	2
東京都立大塚病院	2
兵庫県立淡路病院	2
福岡大学病院	2
和歌山県立医科大学附属病院	2
近畿大学医学部堺病院	2
阿南共栄病院	1
愛媛大学病院	1
JA 徳島厚生連 麻植協同病院	1
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	1
医療法人春秋会 城山病院	1
医療法人社団神鋼会 神鋼病院	1
大阪市立総合医療センター	1
大阪府済生会中津病院	1
大阪府立急性期総合医療センター	1
大津赤十字病院	1
岡山大学病院	1
加古川医療センター	1
京都府立医科大学附属病院	1
高知赤十字病院	1
甲南病院	1
神戸市立医療センター中央市民病院	1
神戸百年記念病院	1
公立甲賀病院	1
公立昭和病院	1
財団法人同友会 藤沢湘南台病院	1
社会医療法人愛仁会 高槻病院	1
市立岸和田市民病院	1
市立豊中病院	1
新松戸中央総合病院	1
杉田玄白記念公立小浜病院	1
済生会今治病院	1
住友別子病院	1
高松市民病院	1
高松赤十字病院	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	1
特定医療法人仁愛会 浦添総合病院	1
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院	1
トヨタ記念病院	1
新潟県厚生連 上越総合病院	1
西神戸医療センター	1
市立半田病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
姫路赤十字病院	1
兵庫県立加古川医療センター	1
箕面市立病院	1
みやぎ県南中核病院	1
合 計	94

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
厚生労働省職員	2
東京都職員 (栄養士)	1
北九州市職員 (栄養士)	1
佐賀県職員 (学校栄養士)	1
赤池スキンケアクリニック	1
株式会社日本一	1
倉敷中央病院	1
ケアホーム横浜	1
四国進学会	1
社会福祉法人 明石惠泉福祉会	1
シンセイフードサービス株式会社	1
ハマダコンフェクト株式会社	1
村上記念病院	1
老人保健施設わかかさ	1
株式会社ザグザグ	1
株式会社百十四銀行	1
株式会社メフォス	1
株式会社医学出版	1
株式会社大島薬局	1
小 計	20
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	21
大阪市立大学大学院生活科学部	2
鳴門教育大学大学院	1
小 計	24
未定	7
合 計	51

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	21
神戸大学医学部附属病院	11
大阪大学病院	4
北野病院	3
九州大学病院	2
神戸市医療センター	2
徳島赤十字病院	2
西神戸医療センター	1
愛媛大学医学部附属病院	1
川崎病院	1
河内総合病院	1
慶應義塾大学病院	1
田岡病院	1
天理よろず相談所病院	1
長崎大学病院	1
東徳島病院	1
兵庫県立病院	1
広島大学病院	1
福山第一病院	1
マタニティクリニック 中山産婦人科	1
宮崎大学医学部附属病院	1
徳島県厚生農業協同組合連合会	1
松茂町保健相談センター	1
市川町職員	1
岡山市職員	1
徳島県病院局職員	2
徳島市職員	1
三好市職員	1

大阪府警察本部	1
阿波市市場支所	1
小 計	69
進学(徳島大学助産学専攻)	6
進学(岡山大学養護教諭特別別科)	1
進学(徳島大学保健科学教育部)	2
小 計	9
未定	2
合 計	80

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
田岡病院	2
阿南共栄病院	1
飯塚病院	1
江戸川病院	1
大分岡病院	1
大分大学病院	1
大手前病院	1
回生病院	1
香川大学医学部附属病院	1
川崎医科大学附属病院	1
京都南病院	1
高知医療センター	1
甲南病院	1
国立病院中国四国ブロック	1
産業医科大学病院	1
住友別子病院	1
高槻病院	1
東芝メディカルシステムズ株式会社	1
徳島赤十字病院	1
徳山中央病院	1
林病院	1
星ヶ岡厚生年金病院	1
市立八幡浜総合病院	1
神戸市民病院機構	1
宝塚市立病院	1
回生病院	1
香川労災病院	1
小 計	30
進学(徳島大学大学院)	6
未定	3
合 計	39

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
府中病院	2
大阪医科大学	1
近畿大学附属病院	1
健保鳴門病院	1
松山赤十字病院	1
徳島県職員	1
兵庫県職員	1
小 計	10
(進学) 徳島大学大学院保健科学教育部	7
未定	2
合 計	19

学遊抄 6年間の学生生活

環境病理学分野 泉 啓 介

医学進学過程の頃は先輩に誘われて入ったバスケットボール部で週2日汗を流し、ドイツ語会話の塾に通う、といったくらいで時間を持て余していた。2年生になると次第に学生運動が激しくなり時間を取られるようになった。専門課程（今の3年生）に上がってまもなく若手の医師や学生による基礎医学棟の封鎖によって講義や実習時間の短縮を余儀なくされた。少し距離を置きながらまじめに運動に関わっていた。封鎖が解除され9月に解剖実習が始まると私自身は俄然忙しくなった。学生運動が収束に向かい、自ら何らかの行動を起こそうと考えていたと思う。沖縄で無医村検診をやるので入らないかと同級生のS君に誘われて社会医学研究部に入り、県内や沖縄の無医村検診に取り組んだ。医学展（現蔵本祭）で「森永ヒ素ミルク中毒事件」を取り上げたいというT君に誘われてその実行委員になり、病理学第二講座や薬理学講座の先生方のアドバイスを受けながら亜硫酸がラットの行動に及ぼす影響の実験を行った。実行委員を引き受けるまではこの事件が徳島で起こったことすら知らなかった。Y君に借りた車で塩野義の研究所までラットを連れて行って実験した。第二病理では実験の合間に(?)酒を飲ませてもらっていたが、赤木 郷助教授（私が講師の時代に事故で亡くなられた）の「キリマンジャロに登りたい」という話に乗せられてしまい、5年生の頃にF君を中心に熱帯医学研究部を立ち上げた。訓練のために(?)頻りに剣山に登り、長崎大学の熱帯医学研究所に行ったりもした。そして6年生の夏休みに同級生5名、赤木先生、高橋正倫助手（昨年亡くなられた）

の計7名で1カ月余りケニア、タンザニアの国立公園を車で駆け巡り、長崎大学の医師や大学院生がいたケニアのナクール病院で見学程度の研修(?)を行った。パーキット腫瘍の患者を診たり、エキノコッカス肝嚢胞の摘出手術の見学をした。キリマンジャロには登らなかった。

こんなことがきっかけで卒後すぐに病理学第二講座（現環境病理学分野）に大学院生として所属することになった。積極的ではなかったにしろ学生時代は勉強以外のことが忙しかったのでほとんど授業をサボらなかつた。その頃講義で聞いたうる覚えの知識が今も結構役に立っている。ここに書いたことは古き時代のことであって、しっかり勉強しなければならない今の学生には無縁のことである。



ケニアのナクール病院にて
(赤いセーターが筆者、隣がF君、左端がY君)

第57回徳島大学解剖体慰霊祭

事務部学務課



平成22年10月13日(水)15時から徳島大学大塚講堂において、第57回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者540人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体して下さった方々の亡き御霊5808柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

● 退職者ご挨拶 ●



「我がアカデミアを振り返って」

呼吸器・膠原病内科学分野、腫瘍内科学分野 教授 曾根 三郎

徳島大学を1973年に卒業し、初代の螺良英郎教授率いる内科学第三講座へ開設2年目に入局。1981年に助手に任用されて以来30年間、徳島大学に奉職した。私の好きな言葉は「邂逅」、自分の人生を大きく変えてしまうような強烈な出会いと定義している。癌転移研究の世界に入るきっかけは、30歳で米国国立がん研究所へ留学した時のボス、Fidler博士との邂逅であった。彼からは癌転移の生物学研究の重要性を教えられ、複雑な自然現象の疑問を解きほぐす論理的な考え方と見事なアプローチ、そして的を射たまとめ方を学んだ。また、先代の小倉剛教授の師である山村雄一大阪大学総長から「人生、天命を待つて人事を尽くす」のが最も大切だと教えられ、何事をす

るにも常に心し実践してきた。米国留学時に会った故鶴尾隆葉学博士は兄弟以上のお付き合いで、先駆的な薬剤耐性克服研究や癌転移研究に関わることができた。数多くの出会いを通して、国際癌転移学会、日本がん分子標的治療学会、そして日本呼吸器学会の会長として采配を振るう機会を与えられ、同時に多くの後輩達もチャンスを得て成長した。平成14年11月から4年間医学部長を拝命し、医歯薬系の教員からなるヘルスバイオサイエンス研究部の創設に関わり、初代研究部長として4年間、多くの方々と共に世界に向けて展開するための基盤形成に微力ながらも貢献できたことを大変光栄に思っている。最後に、本学のさらなる発展と繁栄を今後とも期待したい。



学校保健学分野 教授 郷木 義子

この度、3月末を持ちまして退職させていただきます。私の在職は3年間という短い期間ではありましたが、多くの皆様に支えられ無事勤めることができたことに感謝申し上げます。徳島大学での先生方や学生との出会い、また毎週岡山と徳島の往復の列車の中から眺める穏やかな瀬戸内海の風景はいつまでも私の心から消えることはないと思います。

養護教諭1種免許の養成が総合科学部から保健学科看護専攻に移管された時からの就任でした。看護職養成の中での養護教諭養成はどうあるべきか様々な課題を抱えながら、私なりに手

探り状態で一つ一つ前に進めてまいりました。保健学科看護専攻での初めての養護教諭1種免許を持つ学生を送り出していないことは心残りではありますが、この3年間で医学部の中での教員養成に関して、とりわけ保健学科や栄養学科の先生方、総合科学部の先生方そして教育委員会の方々と話し合いを重ねてまいりました。今後この土台がさらに発展することを願っています。十分な意を尽せませんが私のお礼とお別れの言葉とさせていただきます。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

● 転出者ご挨拶 ●



香川大学医学部分子微生物学講座 教授 桑原 知巳

この度、香川大学医学部分子微生物学講座の教授として赴任することになりました。医学部教育の担当がこれまでの細菌学・真菌学に加えウイルス学も担当することとなり、これまでの教育方法を一新して新鮮な気持ちで人材育成に取り組んでいこうと考えています。これまで17年間にわたり徳島大学で細菌学に関する研究と教育に従事する中で多くのことを学ばせていただきました。この2年間は分野の統合により免疫学研究にも触れる機会を得たことは今後の研究の発展にとって大変貴重

な財産となりました。また、徳島大学病院の感染対策活動に参加した事は教育・研究の視野を拓ける得難い経験であったと感じています。香川大学においても基礎・臨床を問わず様々な分野の先生方や医学部生との交流を通じて担当講座を発展させていきたいと考えています。赴任後はこれまでの教育・研究活動の中で蓄積してきた様々なアイデアを着実に実践していこうと決意を新たにしています。隣県の大学でもあり、今後とも徳島大学の先生方との交流を大切にしていきたいと考えておりますので変わらぬご指導のほどお願い申し上げます。

新任教職員あいさつ



医療教育学分野 教授 赤池 雅史

平成22年12月1日付で、新設された医療教育学分野の教授を拝命いたしました。私は昭和60年に徳島大学を卒業後、徳島大学第一内科での総合的な内科研修、国立循環器病センターでの専門臨床研修や米国ロチェスター大学への研究留学を経て、循環器内科学に在籍し、内科学、特に循環器領域の診療と研究を行ってまいりました。また、平成17年から医学部教

育支援センター副センター長、平成21年からヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センター長を併任し、医療人教育にも携わってきました。今後もこれまでの経験を活かしながら、世界に通じる生命科学研究者と医療人の育成支援とその教育手法の開発研究を目指したいと存じます。皆様方にはこれからもご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。



心臓血管病態医学分野 特任教授 島袋 充生

皆様、はじめまして、島袋 充生（しまぶくろ みちお）と申します。昭和62年、琉球大学医学部医学科（1期生）を卒業し、循環器内科、糖尿病・代謝内科の臨床に関わってきました。脂肪酸由来分子がさまざまな細胞機能異常をおこすことを脂肪毒性ととらえ、内臓肥満症、耐糖能異常が心臓血管病をおこすメカニズムを明らかにしたいと夢見ています。平成23年3月

より、心臓血管病態医学分野 Department of Cardio-Diabetes Medicine という講座に赴任させていただきます。徳島大学は、ハードウェア、ソフトウェアとも大変充実し、素晴らしい指導者・同僚に恵まれています。皆様のご指導、ご教示を賜りながら、Cardio-Diabetes Medicine というあたらしい分野で、発信していきたいと思ひます。



放射線科学分野 教授 原田 雅史

H23年4月1日より徳島大学放射線科学分野教授に就任いたしました。最近の放射線機器の高速化、高精度化をうけて徳島大学病院における放射線科業務も急増しており、一方入局者数の低迷が続いているために、放射線科及び放射線部職員の負担が限界にきているのが現状と思われまふ。これを解決し、各診療科からのご要望にできるだけお応えするために、業務の効率化と集中化を行いながら、入局者数の増加を図るために医局の魅力を上向させていきたいと考えています。放射線部ではご要望が多いMRI検査数の増加に貢献するため、早朝検査枠の拡大にむけて環境を整えているところです。

一方研究についても放射線科は他科との共同研究や工学や薬学といった他分野との協力が多く、放射線科が中心となって進めている研究の取り組みも含めて、さらに発展できるように努力したいと考えています。特にH23年3月から本格的に稼働が始まったバイオイメージングステーションにおける動物のインビボ画像施設に関しても全面的に協力する予定となっています。既に臨床・研究両面で活動を始めており、皆様とご縁が深い部門であると思ひますので、皆様から気軽にご意見、ご相談いただければと存じます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



人体病理学分野 教授 坂下 直実

徳島大学医学部の皆さん、初めまして。佐野壽昭教授の後任として平成23年4月1日付けで徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部人体病理学分野に赴任致しました坂下直実と申します。私は福岡の生まれで北海道、熊本、宮崎で育ち、平成元年に熊本大学を卒業しました。最初は神経内科医を目指して一般内科ならびに神経病学の手ほどきを受けたのですが、

大学院進学をきっかけに病理学の奥深さに心奪われ、以後一貫して病理学を学んできました。病理学は顕微鏡の視野に夢を求める学問です。学生実習を終えても癌細胞と正常細胞の違いがよく分からない学生さんも多いと思ひますが、プロフェッショナルは一枚のHE染色標本から癌細胞の遺伝子変異までを読み取ることができます。これから皆さんと一緒に病理学を学び、その魅力を共有できればと願っています。



学校保健学分野 教授 梶原京子

平成23年4月1日に、徳島大学医学部保健学科看護学専攻へ赴任してきました梶原と申します。

研究分野は学校保健学で、児童生徒の心身の健康課題に対して中核的な役割を果たしている養護教諭の役割及びアイデンティティに関する研究をしています。

近年、保健室を利用する児童生徒は1日当たり約40人とい

う状況にあり、養護教諭は身体的な処置のみでなく心の問題への対応や医療機関との連携などを行うことが期待されています。保健室を多様な理由で利用する児童生徒に対して養護教諭が教育的にどのように関わり、そのことが子どもの発達保障にどうつながっていくのか研究を進めていきたいと思っています。皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



画像情報医学分野 教授 大塚秀樹

平成23年4月1日から医学部保健学科放射線技術科学専攻を担当することになりました大塚秀樹と申します。専門は核医学・磁気共鳴学です。平成6年に本学

医学部医学科を卒業し、大学病院で研修の後、大学院で学位を取得し(磁気共鳴分野)、3年間愛媛県立中央病院で勤務しました。その後核医学・PET分野でアイオワ大学放射線科核医学部門に留学し、帰国後はHBS研究部放射線科学分野で核医学診

療・研究・教育を行っていました。よりよい医療のためには充実した教育が最も大切なものの一つであると考えています。学部では学生の個性を尊重しながら能力を伸ばし、優れた専門能力を身につけさせ、多様化する社会に高い使命感をもって、自立協同して対応できる人間性豊かな医療人育成に努めたいと考えています。皆様のご協力をいただきながら自分自身も研鑽に努めてまいりたいと思いますので、今後ともご指導お願いいたします。

新任准教授
紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H 22.11.1	採用	田嶋 敦	人類遺伝学分野
H 23.1.1	昇任	上村 浩一	予防医学分野
H 23.4.1	昇任	岩佐 幸恵	看護技術学分野
H 23.4.1	昇任	宇都宮 徹	消化器・移植外科学分野



◆◆ 受賞者紹介 ◆◆

岡奨学賞

木戸慎介(分子栄養学分野 特任助教)
近久幸子(統合生理学分野 助教)

*医学部、疾患酵素学研究センター、疾患ゲノム研究センターにおいて、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■第242回徳島医学会学術集会において、第26回徳島医学会賞および第5回若手奨励賞の受賞者が選考されました(平成23年2月13日)。

徳島医学会賞

大学

居村 暁氏(HBS研究部消化器・移植外科学分野)
〈高度肉眼的門脈侵襲陽性の進行肝癌に対する治療戦略—理論的根拠と臨床成績—〉

医師会

田山正伸氏(徳島市医師会)
〈徳島市夜間休日急病診療所の現状と課題—小児救急体制の危機—〉

若手奨励賞

西山 徹氏(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
〈急性期脳梗塞に対しt-PA療法が無効であった症例における経動脈的血栓破砕・吸引術の有効性〉

門田尚子氏(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
〈選択的ニューロキニン1受容体拮抗薬による制吐剤が術後嘔気・嘔吐に及ぼす影響〉

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞

田村公一
(耳鼻咽喉科学分野 准教授)

栄養学優秀教育賞

大和正幸
(予防環境栄養学分野 講師)

保健学優秀教育賞

安原由子
(看護管理学分野 助教)

*医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2010 賞

医学科

近久幸子
(統合生理学分野 助教)

小野公嗣
(顕微解剖学分野 助教)

片岡佳子
(生体防御医学分野 講師)

*Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。

栄養学科

河合慶親
(食品機能学分野 助教)

保健学科

今井芳枝
(臨床腫瘍医療学分野 助教)



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2010 賞 受賞者
後列左から：武田栄養学科長、小野公嗣、片岡佳子、河合慶親、二宮保健学科長
前列左から：近久幸子、玉置医学部長、田村公一、安原由子(敬称略)

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞



第57回医学科卒業生(平成23年3月卒業)
行本 敦

この度、名誉ある中田賞を頂くことができ、大変光栄に思います。大学生生活を支えてくださった全ての人に感謝いたします。この6年間は私にとって経験の日々でありました。また、己の未熟さを知る6年間でもありました。これからも、この賞に恥じぬ様、自分自身を研鑽し勤勉であり続ける所存です。本当にありがとうございました。

児 玉 賞



第44回栄養学科卒業生(平成23年3月卒業)
奥山 舞子

この度は、児玉賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。4年間ご指導いただいた先生方をはじめ、共に支えてくれた家族や友人のおかげだと心から感謝しております。今後はこの受賞をさらなる励みとし、日々精進してまいりたいと思います。

看護学専攻賞



第6回看護学専攻卒業生(平成23年3月卒業)
森 彩歌

この度は看護学専攻賞という名誉ある賞を頂き、心より御礼申し上げます。大学生活では、勉強やサークル等充実した日々を送ることができました。これも偏に4年間御指導くださった先生方や支えてくれた友人のお陰だと思っております。大学で学んだことを活かし、看護師として成長できるよう今後も日々努力してまいります。

放射線技術科学専攻賞



第6回放射線技術科学専攻卒業生(平成23年3月卒業)
中山 千明

この度は名誉ある放射線技術科学専攻賞を頂き大変光栄に存じます。4年間御指導下さいました先生方をはじめ、友人、家族の支えにより充実した大学生活を送れたこと、深く感謝しております。今後もこの賞に恥じぬよう、日々精進してまいりたいと思います。

す だ ち 賞



第6回検査技術科学専攻卒業生(平成23年3月卒業)
猪井紅美子

名誉あるすだち賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間温かくご指導くださった先生方をはじめ支えてくれた家族や友人に深く感謝しております。今後も理想とする臨床検査技師像に少しでも早く近づけることができるように日々努力して参りたいと思います。

竹 内 賞



第5回助産学専攻科修了生(平成23年3月卒業)
牛田 智子

この度は名誉ある竹内賞を頂き、大変光栄に存じます。助産学での学びは、知識・技術の習得はもちろん、多くの妊産婦さんやご家族の方に出会い、その責任の重さと助産の奥深さを感じた濃密な1年でした。助産実習に同意頂いた妊産婦さん、ご指導・助言くださった指導者の皆様に深く感謝しております。これからも常に向上の気持ちを忘れずに精進してまいりたいと思います。

医学部優秀学生賞

医 学 科 4 年：中 西 信 人
栄養生命科学教育部博士後期課程1年：香 西 美 奈
徳島大学医歯薬 A C L S：隅 田 ちひろ (他 39名)
蔵 本 弓 道 部：石 川 雄 樹 (他 3名)
蔵 本 弓 道 部 (女子)：坂 口 香 澄 (他 3名)
保 健 学 科 2 年：傳 美 帆 子
真 鍋 綾 夕 奈

保健学科クリーン対策委員：森 本 友 樹 (他 19名)
大学祭模擬病院：濱 田 真 希 (他 27名)
第8回日本生殖看護学会
学術集会学生ボランティアサポーター：岡 本 史 彦 (他 23名)

※各種活動等において顕著な功績があった学生または学生団体を表彰する賞です。



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

編集後記



桜の季節である4月になると初々しい新入生が入学してきます。最初は講義も真面目に聞いてくれた新入生も、時間が経つにつれ緊張度が落ちてくる感じがします。皆さんは、これまで先代が築き上げた学問を学ぶわけですが、学問には伝承が必要です。どんなに優れた知識・技術があっても、伝承が無ければ、やがては潰えてしまいます。そういう意味では、新入生をはじめとする学生さんに対する教員側からの期待は大きいです。その期待やメッセージを学部長および各学科長につづってもらいました。本学は、2010年世界大学ランキングで世界で317位、日本では12位と上位に位置しています。学ぶ教育研究環境は恵まれています。(酒井)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 酒井 徹(委員長)、泉 啓介、三田村佳典、森口博基、安友康二、田村綾子、米原壽男、竹内大平、前田 翼、岡本史彦

本誌へのご意見・ご要望は、(第1総務係:大亀)E-mail:isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp まで
お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028 URL http://www.med.tokushima-u.ac.jp